２．事業の概要と成果	
（１） プロジェクト目標の達成度 （今期事業達成目標）	【上位目標】プロジェクト対象地域において、若者や妊産婦を含む女性の健康改善に寄与する。 【プロジェクト目標】プロジェクト対象地域において、若者や妊産婦を含む女性の生涯を通した保健サービス利用へのアクセスが増加する。 プロジェクト達成目標（指標）： 1. 保健施設で出産する女性の割合が 45.9%から 65.9%に増加する（+20%） 2. 産前健診を 4 回受ける女性の割合が 11.3%から 26.3%に増加する（+15%） 3. 産後 6 日以内・6 週間以内に産後ケアを受ける女性の割合が、産後 6 日以内（47.8%から 62.8%）、6 週間以内（20.2%から 35.2%）へ増加する。(+15%) 4. 十代による妊娠・出産の割合が 15%低減する。妊娠（23.3%から 8.3%）・出産（27.2%から 12.2%）。 【今期事業の達成度】(2019 年 1 月 29 日～2020 年 1 月 28 日)： 1. 施設で出産する女性の割合: 48.3%（807 件)。2017 年 45.9%（713 件）に比べ 2.4%増加。 2. 産前健診を 4 回受ける女性の割合： 71.7%(1200 件)。2017 年 11.3%（175 件）に比べ 60.4%増加。 目標の 15%増加を達成した。 3. 産後 6 日以内・6 週間以内に産後ケアを受ける女性の割合： 産後 6 日以内：68.2%（1141 件)。2017 年 47.8%（743 件）に比べ 20.4%増加。目標の 15%を達成した。 産後 6 週間以内 40.2%（673 件)。2017 年 20.2%（314 件）に比べ 20.0%増加。 目標の 15%を達成した。 4. 十代による妊娠・出産の割合 10 代の妊娠：28.6%。2017 年 23.3%に比べ 5.3%増加。 10 代の出産：25.0%。2017 年 27.2%に比べ 2.2%低減。
（２）事業内容	ワンストップサービスサイトによる生涯を通した女性の健康づくりを目指し、第 2 年次は以下の戦略の下、事業を展開した。 ➢ **保健医療従事者の能力強化：** 保健施設での質の高い保健サービスの提供に向け、保健施設の環境改善を目指した 5S Kaizen 研修、男性参加を促進するための両親学級プログラム、女性の疾病予防（乳がん・子宮頸がん）を含めた研修を、郡保健局スタッフや保健医療従事者を対象に実施した。地域の保健ボランティアが継続して活動できるよう、保健医療従事者によるモニタリング・支援体制を強化した。 ➢ **相互視察と経験交流の活性化：** 活動モデル地への相互視察訪問や好事例・教訓を共有するワークショップをプロジェクト地区運営委員会メンバーに対し開催し、住民同士で学びあうことで住民のエンパワメントを図った。 ➢ **思春期保健の強化：** 郡保健局・郡教育局との連携のもと、学校及びコミュニティで、学校教師や伝統的リーダーも含め、思春期の女性のエンパワメント（能力強化）に向けた活動を行った。また、ジェンダーの観点で、スポーツを取り入れたライフスキルやリーダーシップに関するワークショップを通し、若年妊娠の予防、HIV・性感染症の予防、性暴力

	の予防を統合させたプログラム強化を図った。 ➢ **女性のエンパワメント（自己資金による活動）：** 女性やコミュニティのエンパワメント活動として、株式会社リンク・セオリー・ジャパンの社会貢献（CSR）としての資金協力や現地の女性起業家（Fay fabrics）による技術協力を得て、コミュニティ主体の収入創出活動、マーケティング、収入支出計画、縫製スキルなどの技術的支援と女性の健康づくりセッションと統合させ、女性のエンパワメントを促進した。 【プロジェクトの3つの柱と具体的活動内容】 1. **保健施設で提供する妊産婦を含む女性の生涯を通した保健サービスの質の向上** 1.1 保健医療従事者を対象に「サービスの質の向上のための研修」「モニタリング強化研修」、「保健施設の管理・サービス環境の改善（5S Kaizen）研修」の実施 1.2 ルフワニャマ郡ミベンゲ地区ワンストップサービスサイトの設立（マタニティハウス、ユースセンター、助産師住居・水タンク、渡り廊下の建設及び基礎的医療機材・医療資材の供与） 1.3 保健医療従事者を対象に「コミュニケーション指導者研修」の実施 2. **思春期、妊娠や出産、家族計画、乳がん、子宮頸がんを含む女性の健康に関する知識と情報の啓発教育** 2.1 若者ピア・エデュケーター養成研修（ルフワニャマ郡のみ） 2.2 学校教師・伝統的リーダーへのオリエンテーション・合同会合 2.3 学校教師・保健医療従事者による保護者へのオリエンテーション 2.4 コミュニティ参加型ペインティングワークショップ・施設維持管理会議と開所式 2.5 地域啓発活動計画の策定及び行動変容のためのコミュニケーション教材の供与、制作、配布 2.6 母子保健推進員（以下、SMAG）、若者ピア・エデュケーターへのコミュニケーション強化研修の実施 2.7 思春期の女性を対象としたエンパワメントワークショップ 3. **持続可能なコミュニティ主体の活動支援に向けたモニタリング体制強化** 3.3 SMAG及び若者ピア・エデュケーターのレビュー会合 3.5 ワンストップサービスサイト運営委員会会合 3.6 自立発展性のための相互視察研修 3.7 プロジェクト地区運営委員会レビュー会合 0. プロジェクト運営全体 0.1 プロジェクト運営委員会（州保健局、郡保健局、郡教育局、PPAZ、ジョイセフ）の開催および共同モニタリング
（3）達成された成果	1. **保健施設で提供する妊産婦を含む女性の生涯を通した保健サービスの質の向上** **(成果1.1)** 保健施設でサービスを利用した女性・若者の満足度が向上する： 「満足している」と回答した人の割合が、プロジェクト開始時の76.6%から2年次終了時の95.5%%と18.9%の増加を示し、2年次の目標(15%増）を達成した。同様に、保健医療従事者のクライアントに対する態度の評価は、「親切な対応であった」が、プロジェクト開始時の72.1%から97.3%に増加した。2年次には、保健医療従事者を対象としたクオリティケア研修として①「モニタリング強化」②「両親学級プログラムの推進」③「5S Kaizen」、④「コミュニケーション指導者研修」を実施し、継続ケアへ向けた質のよい保健サービスを目指した。(マサイティ郡8

地区、ルフワニャマ郡3地区、ムポングウェ郡5地区の保健医療従事者を対象に延べ72名、5日間）

（成果1.2）マタニティハウス・ユースセンター・助産師住居・水タンク・渡り廊下の建設及び基礎的医療機材・医薬資材の供与

- ルフワニャマ郡ミベンゲ地区にて、前フェーズを含め5つ目のサイトとなるワンストップサービスサイト（マタニティハウス、ユースセンター、助産師住居、水タンク）を設立し、基礎的医療機材・医薬資材の供与(47種類140個を提供)。保健医療従事者による包括的な保健サービスの提供が可能となった。（ミベンゲ地区の人口：3,429人）
- ミベンゲ地区の施設分娩数は、89.7%（160件）に達し、事業開始前の2017年65.9%（111件）から23.8%の増加を記録した。2018年に開所したマサイティ郡ンジェレマニ地区の施設分娩も同様に、75.6%（247件）に達し、事業開始前の2017年60.0%（185件）から15.6%増加した。

2. 思春期・妊娠や出産、家族計画、子宮頸がん、乳がんを含む女性の健康に関する知識と情報の啓発教育

（成果2.1）思春期、妊娠や出産、家族計画、乳がん・子宮頸がんを含む生涯を通した女性の健康に関する知識や情報を得た住民及び若者（15歳～24歳）の数が増加する：

女性の健康に関する知識や情報を得た人数は、女性6,742名、男性4,803名、若者10,495名と総数22,040名に達した。（年間目標20,000名）

- ルフワニャマ郡では、計60名の若者ピア・エデュケーター（15歳～24歳の男女）を養成し、目標の計180名のSMAGと120名の若者ピア・エデュケーターの養成を完了した。
- 思春期保健の啓発教育の強化を目指し、マサイティ郡（3地区）では、伝統的リーダーや学校教員、PTA役員で構成された思春期保健委員会のレビュー会合を行い、ルフワニャマ郡（3地区）では同対象者へのオリエンテーションを実施した。（マサイティ郡24人、ルフワニャマ郡65人、1日間）十代の妊娠や早婚、飲酒といったさまざまな思春期保健の課題への取り組みを共有し、本年度の活動計画を策定した。また、学校やコミュニティでの活動の場を積極的に活用することを若者ピア・エデュケーターとともに議論し、若者ピア・エデュケーターが活動しやすい環境づくりを整備した。
- 子宮頸がんや乳がんの知識の向上へ向け、SMAGがコミュニティで活用できるパンフレットを制作し、SMAGが正しく住民へ情報を伝えることができるよう工夫した。英語版と現地語版各420部を各保健施設、SMAG、そして郡保健局へ配布した。

（成果2.2）パートナーの産前・産後健診・施設出産に付き添う男性がプロジェクト開始時より20%増加する：

- パートナーの産前・産後健診・施設分娩に付き添う男性の数は、2018年の855件から2019年の1,193人と延べ338人の増加を示した（39.5%増）。
- 両親学級のプログラムが各保健施設で実施されるようになり、保健医療従事者が産前・産後健診に来た妊産婦や男性パートナーを対象に、妊娠中の栄養、マラリア予防、陣痛のやわらげ方、新生児ケアなどの情報をより具体的に提供することが可能となった。それを受け、男性パートナーの妊娠・出産に関する

関心が高まり、積極的な参画が促進された。

(成果 2.3) 出産計画カードを活用する女性がプロジェクト開始時より 20%増加する：

保健医療従事者や SMAG の啓発活動により、出産計画カードを妊婦に配布し、利用する女性の数は 2019 年では 1,105 人に達し、2018 年の 2,134 人と合わせると累計 3,239 人となった。ベースライン時では、78.2%の女性が出産計画カードを利用しており、エンドライン調査時の目標となる 20%の増加を目指す。

(成果 2.4) 月経にまつわる迷信・理解について正しい知識が 20%向上する：

ベースライン調査と 2 年次終了時に実施した聞き取り調査をもとに下記の結果が確認された。月経の正しい知識は、1 項目を除いて向上したが、平均して 20%の向上までには至らなかった。(調査対象：小・中学校（6 校）に通う女子学生（10 才～19 才）130 名)

① 月経について聞いたことがある　（「はい」と回答）
ベースライン 96.2%→ 2 年次終了 98.5%　（2.3%増）

② 月経中の女性は妊娠しない　（「間違い」と回答）
ベースライン 47.7%→ 2 年次終了 42.3%（5.4%減）

③ 月経時に水の中に入ると月経が終わる（「間違い」と回答）
ベースライン 64.4%→ 2 年次終了 62.3%（2.1%減）

④ 月経中の女性は、台所に入ることや料理をしてはいけない（「間違い」と回答）
ベースライン 40.4%→ 2 年次終了 58.5%（18.1%増）

⑤ 月経中の女性は、人と接触をしてはいけない（「間違い」と回答）
ベースライン 66%→ 2 年次終了 85.4%（19.4%増）

各プロジェクトサイト（6 地区）の近隣の学校で、月経の IEC/BCC 教材（行動変容を目指した教育教材 “Happy to be a girl” を用い、6 校の 216 名の女子学生を対象に、教員、保健医療従事者、若者ピア・エデュケーターが主体となり啓発教育活動を実施した。農村地の学校では、月経を含めた性教育に関する IEC/BCC 教材の不足が課題であり、本セッションにより、より充実したセッションを実施することが可能となった。また、学校と保健医療従事者が連携して包括的な性教育を支援する体制を強化することができた。また、ルフワニャマ郡では 60 名の若者ピア・エデュケーターを養成し、月経を含めた思春期保健の知識の向上を図っている。

(成果 2.5) 月経で学校を欠席した生徒の日数が 10%減少する：

2 年次終了時の調査では、過去 3 か月に月経を理由に学校を欠席した生徒の割合は 34.2%であった（10 才から 19 才の女子 105 名中 36 名)。1 年次の 34.3%（96 名中 33 名）と比較すると、欠席した生徒数は 0.1%減少した。

2 年次の累計欠席日数は 1 年次と比較すると 8.1%の減少となった。

〔計算式〕1 年次の平均欠席日数 0.89 日（85 日/96 人）を基準に 2 年次の想定日数を算出すると 93 日となる（105 人×0.89=93 日)。2 年次の実際の日数（86 日）と想定日数（93 日）の差は、7 日間となり、2 年次に締める 7 日間の割合 (7/86×100) は、8.1%。

欠席した理由の中に「出血が多い日用の布製ナプキンや市販の生理用ナプキンを持参していなかったため」と回答した生徒が 36 名中 4 名となり、1 年次の 33 名中 12 名から 25.3%減少した。月経に備

え、適切に学校で対応できる能力が身についていることが伺える。下記、月経で学校を欠席した女児の日数と人数の分布となる。

月経で学校を欠席した女児の日数と人数の分布（2018～2019年）

	欠席数	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	合計
1年次	生徒数	12名	8名	7名	1名	1名	1名	3名	33名
(2018) 95名対象	累計欠席日数	12日	16日	21日	4日	5日	6日	21日	85日
2年次	生徒数	14名	9名	6名	3名	2名	0名	2名	36名
(2019) 105名対象	累計欠席日数	14日	18日	18日	12日	10日	0日	14日	86日

（成果2.6）乳がん・子宮頸がんの相談件数が20％増加する：

プロジェクト対象地区の女性91名（18才～68才）を対象に乳がん・子宮頸がんに関する聞き取り調査を行った結果、乳がん・子宮頸がんに関する住民の知識が1年次の聞き取り調査と比較すると向上した。また、子宮頸がんの検診件数は、1年次に比べると4.4％増加したが、乳がんは22％減少した。1年次の調査対象者の年齢層（30歳以下）57人に比べると、2年次は66人と多く、若年層への聞き取りが増えたことにより乳がん検診数の減少に影響を及ぼしたとみられる。

① 子宮頸がんに関して聞いたことがある。
はい72.5 ％（66人）。
(1年次の57.1％（52人）から比べると、15.4％の増加)

② 子宮頸がんの症状はどういったものか。
・下腹部または生殖器の痛み27.5％(25人)。
(1年次の9.9％（9人）から比べると17.6％増加)
・出血9.9％(9人)。
(1年次の9.9％（9人）と同値。)
・異常な膣分泌物13.2％（12人）
(1年次の9.9％（9人）に比べると3.3％増加)
・知らない・該当なし45.0％（41人）。
(1年次の67.0％（61人）から比べると22.0％減少)

③ 子宮頸がんの原因は何か。
・HPVへの感染2.2％(2人)
(1年次の0％から比べると2.2％増加)
・割礼をしていない男性との性交渉8.8％（8人）
(1年次の7.7％から比べると1.1％の増加)
・複数の男性との性交渉6.6％（6人）
(1年次の2.2％から比べると4.4％増加)
・伝統的な薬の使用4.4％（4人）
(1年次の4.4％と同値。)
・知らない、該当なし61.5％(56人)
(1年次83.5％から比べると22.0％減少)

④ 乳がんに関して聞いたことがある。
はい92.3％（84人）
(1年次の86.8％（79人）と比較すると5％増加。)

⑤ 乳がんの症状はどういったものか。
・胸の腫れとしこり52.7％（48人）
(1年次の50.5％（46人）から2.2％増加)
・胸の痛み　45％（41人）
(1年次の7.7％（7名）から37.3％増加)

・知らない、該当なし 17.5%（16 人）
（1 年次の 26.4%に比べて 8.9%減少）

⑥ 子宮頸がんまたは乳がんの検査を受けたことがある。
・子宮頸がん検査 12.1%(11 人)
（1 年次の 7.7%(7 人)に比べると 4.4%増加）
・乳がん検査 3.3%(3 人)
（1 年次の 25.3%(23 人)に比べると 22.0%の減少）

子宮頸がんや乳がんの知識の向上へ向け、SMAG がコミュニティで活用できるパンフレットを制作した。ザンビアですでに活用されている既存のパンフレットをもとに、子宮頸がんと乳がんの予防と早期発見の促進を強調し、適切な検査が可能な医療機関の紹介を加えた。SMAG から聞き取りを行い、英語から現地語（ベンバ語）へ翻訳し、SMAG が正しく住民へ情報を伝えることができるよう工夫した。英語版と現地語版のパンフレットは、各保健センター、SMAG、そして郡保健局へ各 420 部配布した。調査の結果、「知らない」と回答する者が全ての項目で減少した。保健医療従事者や郡保健局、SMAG との連携の下、住民が利用可能な保健サービス（相談や検診）と正しい情報の提供を強化する。

持続可能なコミュニティ主体の活動支援に向けたモニタリング体制強化

（成果 3.1）プロジェクト地区運営委員会によるコミュニティ活動計画が策定される。

- 地区運営委員会レビュー会合では、1 年次に策定された活動計画のレビューを行った。事業終了後の持続性を目指した活動内容を見直し、主にマタニティハウス利用者の増加を目指した支援の強化、保健施設の維持費を支援するための収入創出活動の促進、SMAG や若者ピア・エデュケーターの啓発教育活動の支援体制を議論した。また、11 月には、昨年度ワンストップサービスサイトを開所したマサイティ郡ンジェレマニ地区への相互視察を行い、各プロジェクトサイトの保健医療従事者、地区運営委員会メンバー、SMAG や若者ピア・エデュケーターの代表 29 名が集まり、各地区の好事例を共有し、持続可能なコミュニティでの活動計画を協議した。
- プロジェクト運営委員会メンバー（州保健局、郡保健局、PPAZ、ジョイセフ）と保健医療従事者、SMAG、若者ピア・エデュケーター、地区運営委員会の代表 78 名を集結し、プロジェクト中間レビュー会合を 11 月に実施した。各地区での保健指標や活動の好事例を共有し、全プロジェクト地区の共通の課題として挙げられた十代の妊娠・出産数を削減するためのコミュニティ活動計画を策定し、議論した。

（成果 3.2）持続可能なコミュニティ主体の活動支援に向けたモニタリングが年に 2 回行われる。

- モニタリング支援強化ワークショップを郡保健局と共同で開催し、コッパーベルト州保健局、マサイティ郡、ムポングウェ郡、ルフワニャマ郡関係者と保健医療従事者 16 名を対象に 6 月に実施。1 年次に実施したモニタリング支援研修のフォローアップとし、本年度は各保健施設の分析とデータの活用状況を共有し、議論した。
- 1 年次に作成した活動モニタリングチェックリスト（SMAG＆クライアント対象）を活用し、郡保健局とともに各プロジェクトサイトへの合同モニタリングを実施。地区運営委員会レビューや SMAG レビュー会合時に各地区の課題点を共有し、より質の高

い啓発教育活動の実施を促した。

持続可能な開発目標 SDGs の達成

本プロジェクトは、目標 3「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」、目標 5「ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う」、目標 17「持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバルパートナーシップを活性化する」に寄与する。

（目標 3）

プロジェクト対象地での施設分娩の増加、産前・産後健診の受診の増加は、ザンビア農村地の妊産婦死亡の削減（目標 3.1）、新生児死亡率の削減（目標 3.2）に寄与したと言える。 また、SMAG や若者ピア・エデュケーターによる思春期、妊娠・出産、家族計画の啓発活動による住民の知識と情報の向上は、性と生殖に関する保健サービスの利用のアクセスの向上（目標 3.7）へ向けた取り組みの一助となった。

更に、保健医療従事者を対象とした両親学級のワークショップやモニタリング強化ワークショップ、5S Kaizen 研修の実施や IEC/BCC 教材の指導者研修、視聴覚教材の開発は、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)の達成（目標 3.8）と保健人材の能力開発の拡大に該当し、ザンビア農村地での質の高い保健サービスの提供に貢献したと言える。

（目標 5）

マサイティ郡のプロジェクト対象地を管轄する伝統的リーダーは、ジェンダーに基づく暴力廃止や早婚、十代での妊娠削減を積極的に推進し、保健医療従事者や SMAG とともに暴力による被害者の保護や早婚を行う家族への仲介などを行っている。また伝統的リーダーや学校教員、PTA が主体となった思春期委員会を設立することにより、住民主体で思春期保健の課題へ向けた取り組みが強化されている。このことは、すべての女性及び女児に対するあらゆる形態の暴力の排除（目標 5.2）と未成年の結婚、早期結婚といったあらゆる有害な慣行の撤廃（目標 5.3）に寄与している。

ワンストップサービスサイトの設立により、女性及び思春期層の女児を含めた若者の保健サービスへのアクセスが向上した。更に、SMAG や若者ピア・エデュケーターによる啓発活動や女性の健康づくりに関する視聴覚教材の作成により、より多くの女性、女児へ向けた健康促進が可能となった。これらは、性と生殖に関する健康及び権利への普遍的なアクセスを確保する（目標 5.6）に貢献したと言える。

（目標 17）

日本のアパレル企業である株式会社リンク・セオリー・ジャパンの支援により、プロジェクト対象地区の SMAG の女性を対象に裁縫技術の向上を通して、女性の自立を促進している。本事業で活用しているジョイセフエプロンや妊娠シミュレーターといった視聴覚教材は、現地で入手可能な材料を利用し、SMAG が制作・販売している。販売収入の一部を、マタニティハウスや母子保健棟の維持管理に使用している。また、ルフワニャマ郡ムクトゥマ地区では、現地の森林協会が資金を支援し、マタニティハウスの建設が行われている。マサイティ郡ンジェレマニ地区では、郡保健局と保健医療従事者が近隣の電気ケーブル製造工場に交渉し、救急車の燃料費を定期的に支援する覚書を交わした。以上のような民間企業等との連携は、目標（17.17）のさまざまなパートナーシップの経験や資金戦略を基にした効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップの奨励・推

	進の好事例として位置付けされる。
（4）持続発展性	地域全体での活動が継続されることを目指し、過去の活動経験地への視察訪問などを通し、経験共有を行い、郡保健局と密な連携のもと、保健医療従事者及びプロジェクト地区運営委員会や SMAG・若者 PE などと持続可能なコミュニティ主体の活動支援に向けたモニタリング体制を強化した。具体的には、 - プロジェクト運営委員会メンバーである州保健局、郡保健局、PPAZ、ジョイセフでレビュー会合を開催し、各々の役割を明確にした。すべての活動を郡保健局と合同で実施することにより、事業の計画、実施、モニタリングが密な連携の下に実施され、事業終了後の継続した事業支援体制が強化された。 - ルフワニャマ郡ミベンゲ地区では、ワンストップサービスサイトの施設の維持・管理を行うマネジメント委員会を地区運営委員会、SMAG、若者ピア・エデュケーターのメンバーで設立し、住民主体の維持管理体制を整えた。また、保健施設内の公衆トイレや保健医療従事者の住居は、コミュニティ主体で建設されるなど、ワンストップサービスサイトの環境整備が住民主体により実現している。 - 人材育成では、IEC/BCC 教材の指導者研修を各プロジェクト地区の保健医療従事者を対象に実施し、研修を受けた保健医療従事者が SMAG や若者ピア・エデュケーターを指導。継続的な地域ボランティアの育成の体制を整えた。更に、5S Kaizen や両親学級のプログラム導入に伴い、郡保健局と合同で定期的なモニタリングを行うことにより、郡保健局が主導となり保健施設の質の良いサービス向上に向けた継続的なモニタリング支援体制を強化した。 - 過去の活動地域では縫製スキルを身につけた SMAG がジョイセフエプロンや制服の縫製を受注し、売り上げた収入をマタニティハウスの運営管理費などに活用している。住民による収入創出活動のモデルサイトとして視察訪問を受け入れている。 更に、1 年次に実施した本邦研修の学びを受け、母子手帳のザンビア国への導入が検討された。本事業は、JICA 専門家の派遣協力を得て、保健省、WHO、ユニセフ等との 2 日間の関係者会合を開催した。その後、保健省が主導となり母子手帳のドラフトを完成させ、WHO とのパートナーシップの下、全国展開へ向けたパイロット事業が計画されている。